

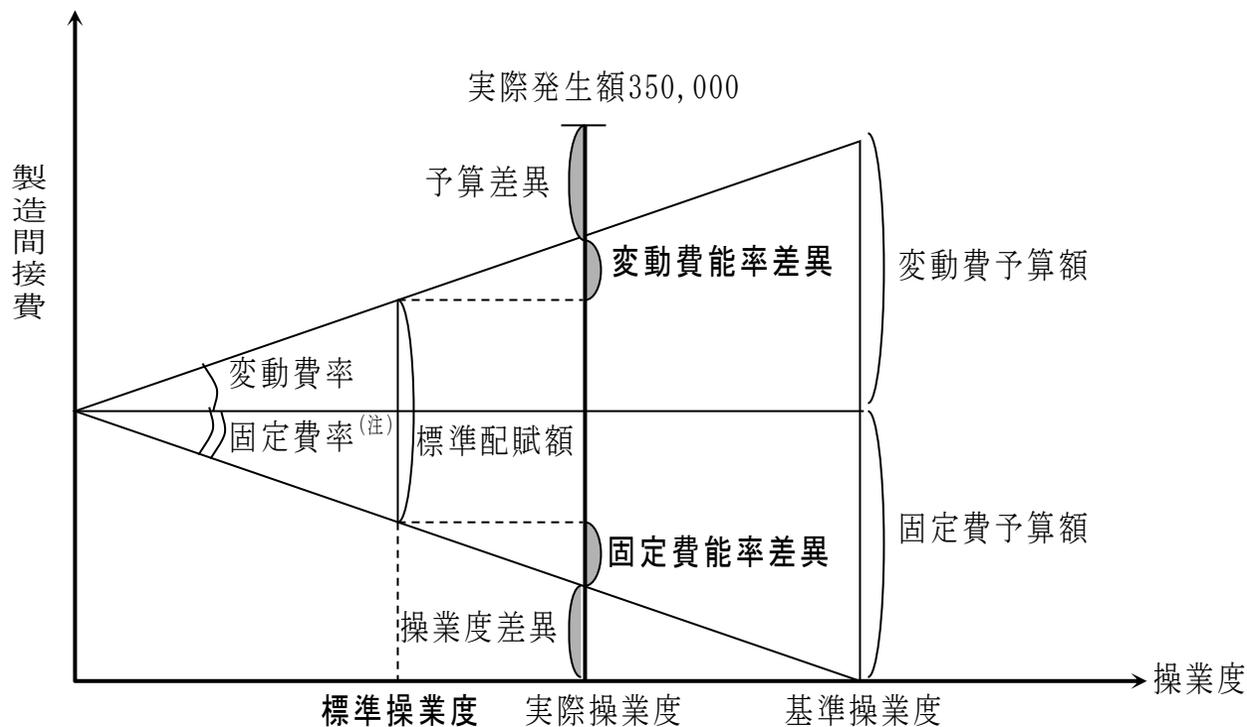
1. 製造間接費の差異分析 (シュラッター図を使って解く方法)

原価要素別に	標準単価	標準消費量	
直接材料費	100円/kg	5 kg	500円
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	
	200円/時間	10時間	2,000円
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	
	300円/時間	10時間	3,000円
製品1個あたり標準製造原価			5,500円

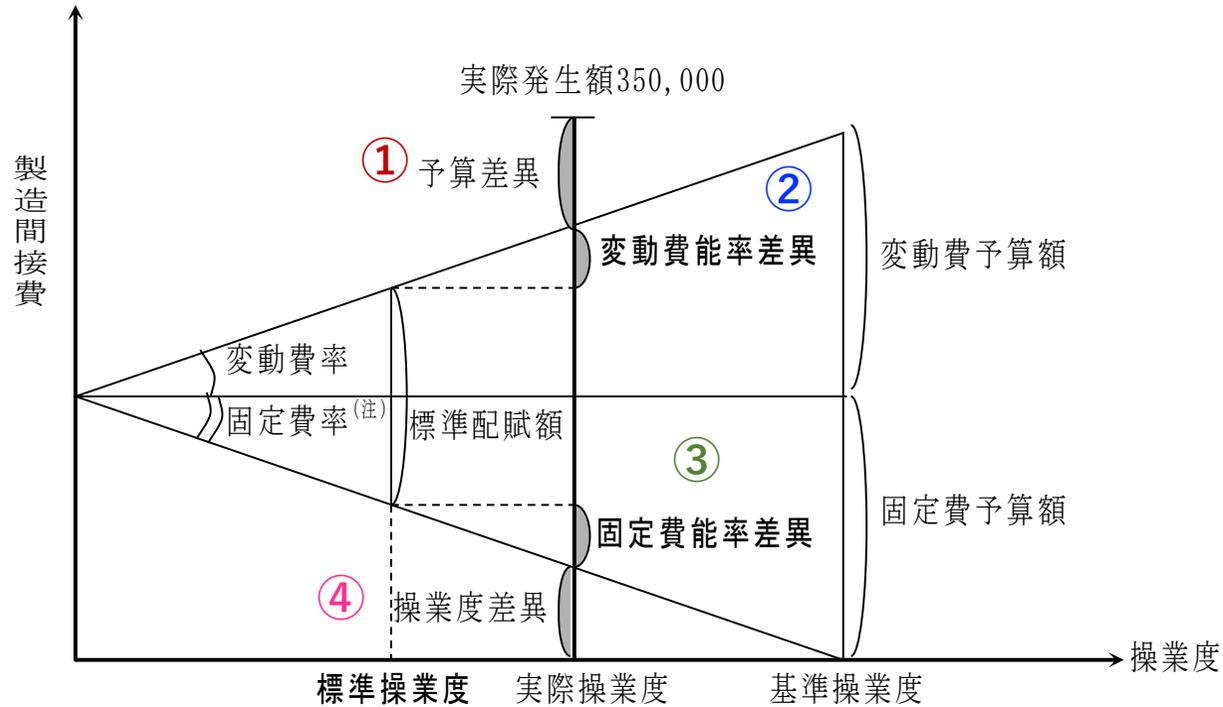
仕掛品 - 製造間接費 (×1個3,000円)



月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)



2. 製造間接費の分析方法P227



	4 分 法	3 分 法(1)	3 分 法(2)	2 分 法
①	予 算 差 異	予 算 差 異	予 算 差 異	管 理 可 能 差 異
②	変 動 費 能 率 差 異	能 率 差 異	能 率 差 異	
③	固 定 費 能 率 差 異		操 業 度 差 異	操 業 度 差 異
④	操 業 度 差 異	操 業 度 差 異		

<設例19-1>

1. BOXを書いて「数量」データを整理する

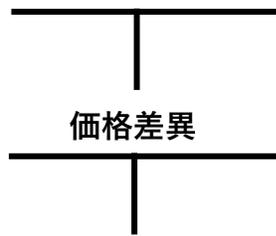
仕掛品－直接材料費 (×1個500円) 

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

直接材料費差異



価格差異

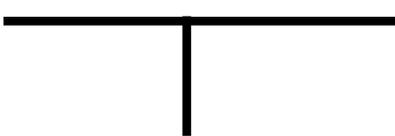


価格差異

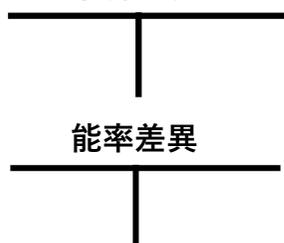
仕掛品－製造間接費 (×1個3,000円) 

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

製造間接費差異



予算差異



能率差異

操業度差異



2. 実際と標準との差額で原価差異を算定する

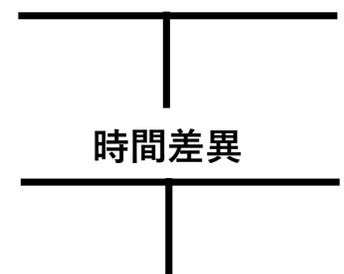
仕掛品－直接労務費 (×1個2,000円) 

月初	20個 (10)	完成	100個 (100)
当月	120個 (110)	月末	40個 (20)

直接労務費差異



賃率差異



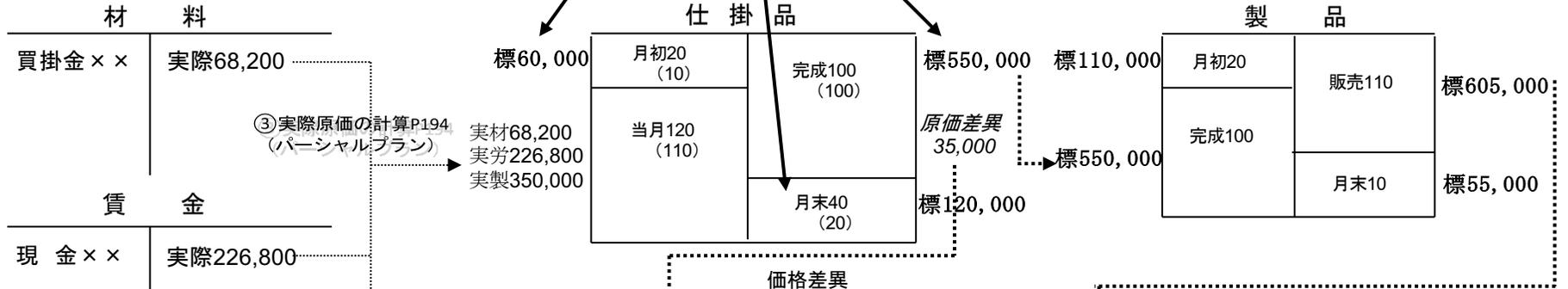
時間差異

<標準原価計算のまとめ>

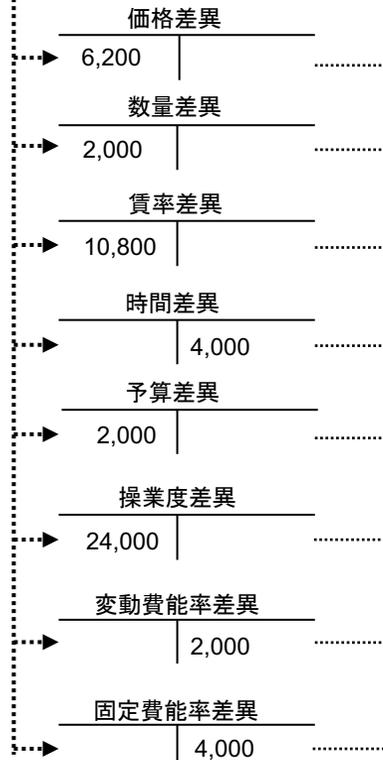
①標準原価の設定P190

直接材料費@100×5kg=500
直接労務費@200×10時間=2,000
製造間接費@300×10時間=3,000
1個あたり製造原価5,500

②標準原価の計算P191



④差異分析P200~207



実際原価に修正
賦課

売上原価

標605,000	時間差異4,000
	変能率差異2,000
	固能率差異4,000
価格差異6,200	} 実際原価 640,000
数量差異2,000	
賃率差異10,800	
予算差異2,000	
操業度差異24,000	

⑤原価報告P210

月次損益計算書

I 売上高		1,100,000
II 売上原価		
1 月初製品棚卸高	110,000	
2 当月製品製造原価	550,000	
3 月末製品棚卸高	55,000	
差引	605,000	
4 原価差異		
価格差異	+6,200	
数量差異	+2,000	
賃率差異	+10,800	
時間差異	-4,000	
予算差異	+2,000	
操業度差異	+24,000	
変能率差異	-2,000	
固能率差異	-4,000	
	+35,000	640,000

売上総利益460,000

材料費 (P200)

価格差異△6,200 (借方差異)
数量差異△2,000 (借方差異)

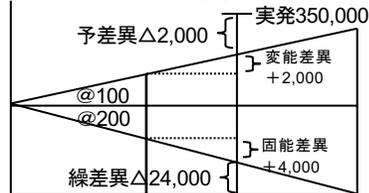
標消600kg 実消620kg

労務費 (P202)

賃率差異△10,800 (借方差異)
時間差異+4,000 (貸方差異)

標時1,100H 実時1,080H

製造間接費 (P204)



標線1,100H 実線1,080H 基線1,200H